

春告草

第84号 平成29年11月29日 進路指導部発行

合格までのスケジュールを確かめよう！

明後日から12月。期末試験が始まるが、6年生は今回が入学以来29回目、そして最後の定期考査である。受験勉強もあるが、手を抜かず最後までしっかりと取り組もう。年明けは始業式のある週末にセンター試験。いよいよ入試が始まる。センター試験は「1月13日以降の土日実施」と決められているので、最も早い実施である。その分、早いセンター対策の取り組みが求められていたが、仕上がり具合はどうだろう。日曜日には最後の模試、センタープレテストを受験してきた人も多い。手応えはどうだっただろうか？あくまでも本番前の練習だ。出来が良かったとしても、仮に悪かったとしても、これからの仕上げが大切だ。センターが早い分、個別試験対策にかけられる時間は長くなる。これから入試本番までの過ごし方について、特に手続き面を中心に説明しておく。5年生、4年生も来年、再来年には同じ状況を迎える。予習のつもりで読んでおこう。

合格までのスケジュール（1回目 願書入手から出願まで）

●受験計画を考える 何校受ける？日程は？無理のない受験スケジュールを立てる

受験スケジュールを組む際には、試験日が何日も連続するのは避ける。「模擬」ではない「本番」の試験はかなりのエネルギーを使うもの。受験した後の復習でも現役生は力を伸ばしていけるので、どうしても仕方がない場合は別として1～2日空けるのが理想である。私立大はセンター利用入試、全学部入試、個別入試など複数の受験機会があるので、組み合わせ上手に受験しよう。また、合格発表日、入学手続き日にも注意する。第一志望校の合格発表の前に併願校の入学手続きが締め切られる場合、併願校に入学金などの学費を納入しなければいけないケースもおこり得る。

●募集要項を手に入れる

各大学とも12月15日までは募集要項（願書）を発売・配付・販売する。最近はネット出願に切り替える大学が増え、紙媒体の募集要項・願書を用意しない大学が増えているが、「冊子」が用意されている場合はなるべく早く入手し、出願手続きなどを確認しておく。募集要項の入手方法は、主に次のような方法がある。

方法1 大学ホームページからダウンロードする

募集要項の冊子が用意されていない場合は、大学ホームページから募集要項をダウンロードしプリントする。スマホの小さい画面だけでは見落としもあるだろうから、必ず紙で確認することが出願ミスを防ぐための最低条件である。

方法2 テレメール、インターネットで申し込む

各大学のホームページやテレメールなどから申し込むことができる。申し込み後、2～3日後に募集要項などが届く。募集要項代金（私立大）や手数料は、その後振込用紙で支払う仕組みだ。

方法3 大学に電話、FAXで申し込む

各大学の入試課（入試センターなど名称が異なる場合もある）に電話またはFAXして直接依頼する。平日だけ、あるいは受付時間が決まっているなど、大学によって対応が異なるので注意する。



募集要項は20～30頁の冊子になっている。私立大はいろいろな入試方式があるのでページ数も多く写真右の中央大は100頁近いボリュームだ。国公立大は前期日程、後期日程それぞれの願書と送付用袋がセットされている。

方法4 大学に直接郵送で請求する

大学から直接郵送してもらおう場合は、切手を貼った返信用封筒（大学指定の大きさ）を同封して申し込む。返信用封筒に貼る切手の料金は、請求する要項や速達の有無によって異なるので確認すること。

方法5 大学で直接受け取る

大学に直接出向いて入手することもできる。家から遠くない大学の場合は、試験場の下見にもなる。ただし、土日、祝日、大学休業日や平日の取扱い時間外などは受け付けてくれないので、確認してから出かけよう。

方法6 書店で購入する

募集要項を販売している大型書店では購入も可能であるが、全大学そろっているわけではない。

※ いずれの方法にしても、年明けに要項を入手しようとすると意外に時間がかかったり品切れになっていたりする場合もある。余裕をもった出願をする為にも、年内には要項を入手しておくことだ。特に国公立大については、センター試験自己採点の結果により、出願先を変更する可能性のある大学は事前に取り寄せておこう。

●出願手続き

急速に広がるネット出願 うっかりミスに注意

入試出願で肝心なのは、入学願書、調査書、入学検定料（受験料）に関わることだ。それぞれについてポイントをあげておこう。

1 入学願書

募集要項にある記入例をよく見て、指定された筆記用具ではっきり分かるよう丁寧に書く。ペン書きの場合は一度下書きするのもいい。私立大は1枚の願書で、複数の入試方式や学部に出願できることも多いので、志望学部や方式を間違えずに書く。

念のために注意しておくが、大学受験である。保護者に代筆を頼むのではなく、自分で記入する。

2 インターネット出願

大学のホームページの専用画面で出願手続きを行う「ネット出願」を取り入れた大学が増えた。一般入試では、私立大の過半数が実施し、国公立大でも43大学が導入している。

入力内容の確認画面があり、未入力や誤りがあれば再入力を促してくれるが慎重に手続きする。複数の方式や学部・学科を併願する場合などは検定料の割引なども自動的に計算してくれるが、各項目について確認しながら手続きを進めよう。

3 調査書

願書1枚につき1通の調査書が必要となる。出願後に他学部や他学科を受験することになった場合は、さらにもう1通必要になる大学と不要という大学に分かれるので募集要項で確認しておく。

平成30年度大学入試・受験スケジュール

12月	～13日 センター試験受験票等受領 ～15日 募集要項発表 15日 出願校リスト、調査書発行記録簿提出締切り(校内) ※募集要項・願書入手(各自)	私立大一般入試(二月入試) ↓ 同(三月入試)	
1月	私立大一般入試願書受付開始 9日 始業式(調査書受領) 13日 センター試験1日目 14日 センター試験2日目 15日 データリサーチ(自己採点・校内) 17日 センター試験平均点等中間発表 19日 データリサーチ結果返却 20,21日 センター試験追・再試験 22日～ 国公立大出願受付(～31日)		
2月	1日 センター試験平均点等最終発表 ～7日 国公立大(前期)第1段階選抜結果発表 ～20日 公立大(中期)第1段階選抜結果発表 25日～ 国公立大前期試験 ～28日 国公立大(後期)第1段階選抜結果発表		
3月	8日～ 公立大中期試験 10日 卒業式 12日～ 国公立大後期試験		

ネット出願の流れ

ネット出願のやり方は大学によって異なる場合もあるが、一般的には次のような手順となる。

- ①大学のホームページにアクセスし、ネット出願の画面を開く
- ②出願する入試方式・区分、学部・学科などを選択する。
- ③出願者の情報(住所・氏名、性別、生年月日など)を選択・入力する

※郵便番号を入力した後「住所を自動入力」を選択すると「〇〇市△△町」まで表示されるが、その後の「番地」や「マンション部屋番号など」が未入力のままになっているケースが多いそうだ。住所は最後まで正確に入力しよう。

- ④入学検定料(受験料)の支払い方法を選択する

※受験料の支払い期限は「ネット入力をした翌日の23時59分まで」などと決められている大学もある。支払い期限を過ぎてしまうと、登録した出願データが消去されてしまうので、登録して安心!ではなく、支払いも早めに済ませよう。

- ⑤出願書類(調査書・写真)を郵送

※web上で手続きを完了したあとで、調査書や写真を送付しなければいけない。また大学によっては、受験写真の送付ではなく写真データをアップロードする大学もある。ファイル形式はJPEGが一般的だ。最近の傾向として、受験写真を入学後の学生証写真に利用する大学も多い。高校の制服での撮影不可というところもあるので注意しよう。

4 入学検定料（受験料）

銀行をはじめとした金融機関からの振り込みが一般的だが、郵便振替やコンビニで支払える大学も増えた。大学指定の振込依頼書を銀行の窓口などに持参して納めよう。その際、必ず収入印が押されているかを確認すること。収納証明書は出願書類に同封して郵送する。

5 出願書類の提出

入学検定料の振込が済んだら、次は出願書類を提出する。紙の願書による出願では「書留・速達による郵送」のみに限る大学がほとんどだ。

ネット出願でも多くの場合は、最終的に調査書や、画面上で登録した出願票のプリントアウト、受験料の支払い証明書、受験写真などを郵送しなければいけない。ネットで出願が終わったと勘違いして、出願書類の郵送を忘れるケースがあるという。十分に注意しよう。なお、紙の願書による出願とネット出願で、締切日を分けている大学もけっこうあるので要注意だ。

●第1回目は以上で終了。第2回目はセンター試験受験票の受領から合格発表後の学費納入と入学手続きまでを掲載する予定。

4 年生が大学訪問

電通大で模擬講義を聴講

1 期生から続けて行われている電気通信大学訪問と模擬授業が11月15日の午後に行われた。

模擬講義はⅢ類電子工学プログラム 中村 淳教授に「ものの性質・機能を原子レベルでデザインする」というテーマでナノテクノロジー、量子力学に関するお話を伺った。電通大の校章のデザインから入った「つかみ」の部分で「えーっ」と生徒たちの声が上がったが、随所に驚きや発見があり、そのたびに生徒たちの感嘆の声が上がる講義だった。いろいろな研究成果の紹介もあったが、それらが研究室の学生、大学院生によるものだとこのところ、理工系学部の研究室での様子を知ることができたのではないのでしょうか。

講義に先立って電通大の概要や入試システムなどについてアドミッションセンター三宅特任教授からお話を伺ったが、これから進路を考えていく4年生にとっては大変参考になった。

大学の概要は以下の通りである。

電通大は昨年、大学全体を情報理工学域に統一し、Ⅰ類（情報系）、Ⅱ類（融合系）、Ⅲ類（理工系）の3つの類と14の教育プログラムで再編した。電気通信というと、情報、電気・電子工学というイメージが強いが、カバーしていない領域は建築・土木、海洋・船舶工学だけという総合理工系大学なのである。

学生募集は推薦(67名)、前期(370名)、後期(250名)で、後期の募集枠が多い。また前期募集は一括募集のため、学年進行に合わせて学問分野を選んでいく教育システムである。工学といっても、高校段階では未知の領域が広いので、分野を絞り切れない人にとっては有難いシステムとみることができる。



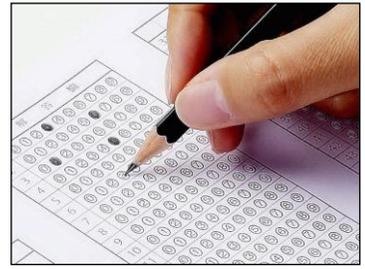
模擬講義のお礼も兼ねて電通大の大学祭(調布祭)に出かけて、中村研究室を訪問してきました。研究内容を説明してくれたのは山口県出身の学部4年生、東工大大学院進学が決まっているそうです。大学3年生の時、文部科学省管轄の研究所へインターシップに行き、そこでナノテクノロジーの研究に触れて、中村研究室へ入ることを決めたとおっしゃっていました。(画像は研究室紹介パンフより掲載した)

理 学				工 学			
物理学分野	化学分野	生物学分野	地球科学分野	情報科学分野	機械工学分野	電気・電子工学分野	情報工学分野
				応用物理学分野	応用化学分野	応用生命科学分野	生物・生命工学分野
				材料工学分野	経営管理工学分野	航空・宇宙工学分野	映像・光工学分野
							医用生体工学分野
							土木工学分野
							建築学工学分野
							船舶・海洋工学分野
							商船学入分野

電通大で学べる領域

マーク試験にご用心！

大学3年の時にプログラミングの授業があった。今や、本校でも生徒にタブレットパソコンが一人一台ずつ貸与される時代であるが、何しろ40年以上も前の話。IBM370というマシンだったが、我々数学科の学生が端末を自由に使える資格はなく、生協の売店で売っていたマークカードにプログラムの1行1行をマークしてコーディングしていた。プログラムにミスがあれば、そのマークを消して塗り直すという、IBMの最新マシンの処理速度からすれば、気の遠くなるような超アナログ作業を強いられた。その時に、プログラムエラーではね返されたカードのマークをチェックしても、プリンターで打ち出されたミスが発見できない時があった。しかし、よくよく調べてみると、消し方が不十分だったことや、カードに残った消しゴムのカスが原因であることが多かった。今は機械の読み取り精度も上がり、以前に比べれば読み取りエラーは少ないはずであるが、精度が上がったが故のエラーも起こるだろう。つまらないミスで自分の解答が「誤答」と判定されないためにも、マーク試験こそ細心の注意を払って受験したいものだ。



●消しミスや思い込みでのマークミスを無くす

6年生は期末試験後、センター試験演習を行うが、昨年の例では消しミスによる誤答、マーク漏れが目立った。提出された全シートの数%にマークミスが見られたので、十分に注意して練習しよう。受験番号欄に番号は記入したがマークをし忘れたというケースや空欄にすべきところを思い込みで「0」で埋めてしまったという事例もあった。

これまでも「マーク模試」は行ってきて、そういったミスを自分にはしていないと思いがちだが、インターネットで次のような衝撃証言を発見した。



自己採点では高得点。しかし、解答科目のマークもれて0点に。本人は気付いていないが…

「模試屋をしています。

模試では、受験直前期でも5%程度の読めないマークシートが発生します。よほど先生の指導の良い高校実施の模試でも1%程度は読めません。マークミスや消しゴムのカスの場合も多いのですが、マークシートの塗り方そのものが原因の場合も結構あります。

でも、きちんと採点されて返ってきますよね。なぜだか分かります？ 模試は採点して成績を返すところまでが商売なので、気づいたら必ず修正をするからです。マークシートの塗り直しは日常茶飯事です。

『模試で大丈夫だったから、入試でも大丈夫』という勘違いはしないでください。」

マークミスで誤答と判定された場合、さらに厄介なのは本人が誤答と認識していないこと。自己採点が正確にできないので、国公立大学出願で判断を誤ることにともつながりかねません。くれぐれも慎重に…！

●マークは鉛筆に限る！

模試屋さんにはマーク試験でのシャープペン使用についても次のような警鐘を鳴らしています。

「シャープペンシルと鉛筆の芯の成分が全く同じだと勘違いをしている人は多いです。シャープペンシルの芯も本来は鉛筆の芯と同じ黒鉛ですが、シャープペンの芯の商品パッケージに表示されているように、折れにくく、そして濃く書くために、黒鉛以外の成分も多く入っています。この為、同じ濃さに塗ったつもりでも、黒鉛自身の濃さはものすごく薄い、という商品があります。HBのつもりが、黒鉛の濃さでは4Hくらいしかないということもあります。芯を折れにくくするための成分も入っています。

そして、読取機の多くは、この黒鉛の反射する光を読み取っています。けっして『黒い色』を読んでいるのではないのです。」

どうですか？もう、シャープペンシルでも大丈夫という気にはなれませんよね。細い芯を折れにくくする為の硬化剤は紙の表面を削っているようなものです。反射する光を読み取るという原理からいえば、表面はフラットな方が良いに決まっていますよね。マーク試験でシャープペンの使用は厳禁です。